

モビリティとことばをめぐる挑戦

社会言語学の新たな「移動」 三宅和子・新井保裕編 定価 3,520 円

「移動の時代」といわれる 21 世紀、グローバル化、デジタル化の中で移動する人とことばの関係は多様性・流動性を深めている。従来の人文社会科学のパラダイムでは捉えきれなくなった、ポストモダンを生きる人々の「モビリティ」とことばの現実を把握するにはどのような視点や方法論が求められるのか。この課題に取り組んできた 10 人の研究者が集結。

執筆者：新井保裕、岩崎典子、生越直樹、フロリアン・クルマス(三宅和子訳)、佐藤美奈子、サウクエン・ファン、古川敏明、三宅和子、山下里香、吉田真悟



新版 社会言語学図集

日本語・英語・中国語・韓国語解説

真田信治・朝日祥之・簡月真・李舜炯編 定価 2,750 円

社会言語学の各領域におけるトピックを集成し、それぞれの裏付けとなったデータを図表の形にして掲げ、日本語と英語・中国語・韓国語で簡潔な解説を加えた。近年、大学等での授業科目として「社会言語学」が取り上げられることが多くなった。本図集は、そのための教材として新たに編修したものである。

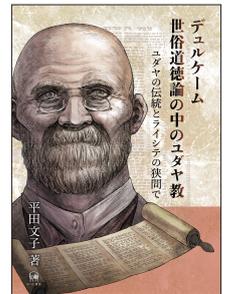
★『改訂版 社会言語学図集』
(秋山書店)の改訂新版です。



デュルケーム 世俗道徳論の中のユダヤ教

ユダヤの伝統とライシテの狭間で 平田文子著 定価 7,700 円

デュルケームは、彼の出自であるユダヤ教信仰を棄てて世俗道徳論者になったとされるが、本書ではこの通説に疑義を呈し、フランスの道徳教育の基盤ともなった彼の道徳的連帯論をユダヤ教に根拠を置いて検討する。社会学の創始者ともされる彼の世俗道徳論をユダヤ教の法概念に照らして解釈することは、「宗教から世俗主義へ」という近代思想・近代社会の展開に新たな視点を与える。



越境者との共存にむけて

村田和代編 定価 4,620 円

日本社会における喫緊の課題である多文化共生をめぐり、ポストコロナの日本社会において、何を变えるべきなのか、誰が変わるべきなのか、越境者との共存や多様性をあらためて問直す。

執筆者：岩田一成、大石尚子、岡本能里子、片岡邦好、木村護郎クリストフ、Astha TULADHAR、村田和代、山口征孝、吉田悦子、Julian CHAPPLE、Magda BOLZONI

シリーズ 文化と言語使用 3

場と言語・コミュニケーション

井出祥子・藤井洋子監修

岡智之・井出祥子・大塚正之・櫻井千佳子編

定価 3,960 円

「シリーズ 文化と言語使用」第 3 巻。近代哲学・科学のパラダイムを乗り越え、場の理論にもとづき、「言語とは何か」という問いに豊富な事例研究をもとにアプローチする。William F. Hanks による序文掲載。

執筆者：大塚正之、井出祥子、岡智之、植野貴志子、新村朋美、成岡恵子、小森由里、小柳昇、河野秀樹

国語問題と日本語文法研究史

仁田義雄著 定価 3,080 円

言語的平等の理想と現実の乖離から国家の国語に対するあり方に触れ明治以降の文法研究の進展から日本語文法研究史を概説。さらに現代日本語文法の記述的研究の確立化を示す。

アジア・太平洋における日本語の過去と現在

今村圭介、ダニエル・ロング編 定価 7,920 円

かつて日本の植民地であった地域には日本語からの影響が残る。「残存する日本語」「接触言語」「日本語からの借用」の 3 つの側面から旧植民地における言語の全容を問う。

執筆者：今村圭介、ダニエル・ロング、朝日祥之、甲斐ますみ、黄永熙、甲賀真広、合津美穂、真田信治、高木丈也、張守祥、白曉萌、李舜炯

Linguistic Atlas of Asia

遠藤光暁・峰岸真琴・白井聡子・鈴木博之・倉部慶太編 定価 30,800 円

アジアの全語族の「太陽・稲・乳・風・鉄・計数法(類別詞)・声調とアクセント・雨が降る」の 8 項目の言語地図を描画し、解釈を集成。マクロ・ミクロな地理分布を一望できる。大判付録地図付き。

改訂版 社会言語学 [近刊 3月刊行]

基本からディスコース分析まで

岩田祐子・重光由加・村田泰美著 定価 2,420 円

社会言語学の成り立ちから最新の研究知見までカバーした『概説 社会言語学』の改訂版。社会言語学の基本的なテーマを扱う一方で、相互行為的社会言語学、談話分析、会話分析、言語人類学、批判的談話分析などのテーマの解説も充実。

〈表示価格税込〉